



**JA三井リース**  
**GROUP**

# 2026年3月期 第3四半期 連結決算の説明資料

**JA三井リース株式会社**

※ 本資料は情報提供のみを目的としたものであります。また本資料には現時点で入手可能な情報に基づく将来予測値が含まれておりますが、実際の業績は将来の様々な要因により変動することがありますのでご注意ください。

# CONTENTS

## I . 決算概況

決算ハイライト

2026年2月3日付当社リリース（抜粋）

損益の状況

親会社に帰属する四半期純利益の増減要因

税引前損益の増減要因 ～KG予防的引当を考慮～

バランスシートの状況

営業資産残高の状況

## II . 資金調達の状況

資金調達の状況

格付情報

# I . 決算概況

## 決算ハイライト

売上高は増加したものの、貸倒引当金繰入額1,505億円（1,030億円繰入増／2025年11月14日付報告対比）を織り込んだことから、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比1,467億円の減益となり、1,199億円の純損失を計上。

総資産額は前期末比0.9%増の3兆4,338億円、営業資産残高は前期末比4.7%増の3兆2,306億円。

一方、当期純損失の計上により純資産は前期末比40.1%減の2,004億円となり、自己資本比率は前期末比4.0ポイント低下の5.7%。

（※）2026年3月期の通期連結業績予想につきましては、2025年11月14日に公表いたしました業績予想から変更しております。詳細につきましては、2026年2月3日に公表いたしました「当社グループ会社におけるファクタリング債権の取立不能又は取立遅延のおそれに伴う損失計上及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

（単位：億円）

	'23年12月期	'24年12月期	'25年12月期	前期比 (増減額)	前期比 (増減率)	'26年3月期 (予想) (※)
売上高	3,938	4,274	4,742	+ 468	+ 11.0%	6,202
営業利益又は営業損失 (△)	279	322	△1,138	△1,460	—	△1,058
経常利益又は経常損失 (△)	287	320	△1,121	△1,442	—	△1,051
親会社株主に帰属する 四半期純利益又は四半期純損失 (△)	196	267	△1,199	△1,467	—	△1,157
契約実行高	7,553	10,489	9,077	△1,412	△13.5%	

	'24年3月期	'25年3月期	'25年12月期	前期末比 (増減額)	前期末比 (増減率)
総資産	29,558	34,018	34,338	+ 320	+ 0.9%
営業資産	26,506	30,849	32,306	+ 1,456	+ 4.7%
有利子負債	24,733	28,835	30,623	+ 1,787	+ 6.2%
純資産	3,072	3,347	2,004	△1,343	△40.1%
自己資本比率	10.2%	9.7%	5.7%	△4.0pt	—

## 2026年2月3日付当社リリース（抜粋）

リリースは当社ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.jamitsuilease.co.jp/news/pdf/20260203.pdf>（日本語）[https://www.jamitsuilease.co.jp/en/pdf/news\\_pdf\\_20260203.pdf](https://www.jamitsuilease.co.jp/en/pdf/news_pdf_20260203.pdf)（English）

2026 年 2 月 3 日

各位

J A 三井リース株式会社

当社グループ会社における  
ファクタリング債権の取立不能又は取立遅延のおそれに伴う損失計上  
及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

J A 三井リース株式会社（以下「当社」）グループ会社 Katsumi Global, LLC（以下「KG」）のファクタリング取引先 First Brands Group, LLC（そのグループ会社を含め、個別に又は総称して以下「FBG」）が 2025 年 9 月にアメリカ合衆国連邦倒産法第 11 章（以下「Ch. 11」）に基づく申請を行いました。

本件は未だ各種手続の最中ではありますが、関連する公示情報によれば、FBG がその売掛債権（以下「本債権」）の相当程度につき、水増し請求、架空請求、又は多重譲渡等を行っていた可能性が指摘されており、FBG の創業者等が金融詐欺等の罪により起訴されております。

当社のグループ会社が FBG からファクタリング取引を通じて取得した本債権にも影響が及び、回収の蓋然性に疑義が生じていることから、当社は予防的見地から貸倒引当金を計上することといたしました。

## 記

## 1. 対象となる当社グループ会社

KG アメリカ合衆国テキサス州  
JA Mitsui Leasing Capital Corporation アメリカ合衆国ニューヨーク州及び SPC

## 2. 法的手続きを確認した KG の取引先

FBG アメリカ合衆国オハイオ州

## 3. 内容

- 当社グループ会社 KG のファクタリング取引先である FBG は、2025 年9月28 日付で Ch. 11 に基づく申請を行いました。
- 当社グループは、FBG からファクタリング取引を通じて本債権を取得しております。
- 本件は、2026 年 2 月現在も米国倒産裁判所（以下「裁判所」）での Ch. 11 手続き中にあり、断続的に裁判所を通じて情報が公示されているほか、各種報道等も出されております。公示情報を精査する中で、「FBG による不正」や「債権の多重譲渡（multiple pledges）」等が取り沙汰されており、FBG の創業者等が金融詐欺等の罪により起訴されております。
- 当社グループといたしましては、一連の金融詐欺等により被害をうけたものとして、これらに対し真正面から向き合い、Ch. 11 手続き対応及び当社グループの債権回収最大化に最後まで全力で努めて参る所存です。
- Ch. 11 手続きの今後の帰趨については依然として見通し難いという状況、及び裁判所から出されている公示情報に照らしますと、ファクタリング債権の回収の蓋然性に疑義が生じていることを認識しております。当社グループといたしましては、予防的な見地から、将来的な不確実性に備えるため、前広に貸倒引当金を計上することといたしました。

- 今回、会計監査人と協議し、2026年3月期第2四半期と同様、米国会計原則（US-GAAP）における貸倒引当金の算定基準である CECL（現在予想信用損失）モデル（※1）を活用し、2026 年 3 月期第 3 四半期連結決算での織り込みを行います。

（※1） CECL（Current Expected Credit Loss）モデル…現時点から将来の予測を含めて考慮し、信用損失の“可能性”を“早期”に認識する目的から米国で導入されている貸倒引当金算定モデル。

（貸倒引当金繰入の内容）

- 2026 年 3 月期第 3 四半期連結決算におきまして、貸倒引当金繰入額 1,505 億円を織り込むことといたします。
  - この貸倒引当金算定の対象は、既に公表いたしましたこれまでの貸倒引当金繰入（※2）を包括的に含めています。2025 年 11 月 14 日付報告対比では+1,030 億円（繰入増）となる水準です。
- （※2） 2025 年 10 月 31 日付プレスリリース、同年 11 月 14 日付プレスリリース参照

- 裁判所による本債権の確認作業を注視しつつ、当社グループ内に対策チームを組成し、適切な司法手続き等を通じて本債権の回収に全力で取り組んでおります。
- 当社は、本取引以外の全てのファクタリング債権につき詳細な確認を実施し、本取引における不正と類似の疑義がないことを確認済みであり、本件はあくまで一過性の事案であって、当社の他の事業への影響は限定的であると判断しています。
- また、今後の健全な事業成長を着実に継続し得るよう、現在の財務健全性を維持できる水準までの十分な資本を確保する目的から、主要株主 2 社（農林中央金庫及び三井物産株式会社）に対し資本的支援を要請、加えて主要取引金融機関 5 行（農林中央金庫、株式会社三井住友銀行、三井住友信託銀行株式会社、株式会社三菱 UFJ 銀行及び株式会社みずほ銀行）とは資本性を有する劣後特約付シンジケートローン（ハイブリッドローン）の組成につき前向きに協議しております。
- なお、筆頭株主かつ主要取引金融機関である農林中央金庫からは、昨年末の時点で借入枠を大きく増枠いただいております、当社グループとしての必要資金は現時点で十分確保できている旨、申し添えます。
- 当社グループといたしましては、今回の貸倒引当金計上を受け、再発防止策を講じるとともに、経営改善計画の策定及び実践を進めていくこととしております。
- この一過性の大きな課題をしっかり乗り越え、当社サービスを世の中に届け、これまで以上の社会貢献に努めてまいります。

## 4. 業績予想の修正について

2026 年 3 月末の連結通期業績予想（2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日）につきましては、上記影響等を考慮し、以下のとおり修正いたします。

（期初：2025年5月13日公表ベース）

	売上高	営業損益	経常損益	親会社株主に帰属する 当期純利益
通期	6,163 億円	512 億円	513 億円	358 億円

（今回修正後）

	売上高	営業損益	経常損益	親会社株主に帰属する 当期純利益
通期	6,202 億円	▲1,058 億円	▲1,051 億円	▲1,157 億円

# 損益の状況

## 比較損益計算書

(単位：億円)

	'23年12月期	'24年12月期	'25年12月期	前年同期比
売上高	3,938	4,274	4,742	+468
リース	3,325	3,507	3,731	+224
割賦	168	162	144	△17
ファイナンス	363	482	524	+42
その他	81	121	341	+219
売上利益	850	1,070	1,206	+135
リース	419	505	562	+56
割賦	22	24	25	+1
ファイナンス	363	482	524	+42
その他	45	58	94	+35
資金原価	306	434	487	+53
売上総利益	544	635	718	+82
販管費	265	313	1,856	+1,543
一般経費	251	280	291	+11
のれん償却	7	5	2	△2
貸倒引当金繰入	6	28	1,562	+1,534
営業利益又は営業損失 (△)	279	322	△1,138	△1,460
営業外損益	8	△2	16	+18
経常利益又は経常損失 (△)	287	320	△1,121	△1,442
特別損益	0	70	1	△68
税引前利益又は損失 (△)	287	390	△1,120	△1,510
法人税等	91	123	79	△43
四半期純利益または純損失 (△) (*1)	196	267	△1,199	△1,467

### 売上高・売上総利益

売上高：前年同期比11.0%増（同468億円増）

売上総利益：同13.0%増（同82億円増）

リースは、営業資産の売却益等が寄与。

ファイナンス・その他は、海外、不動産、再生可能エネルギー、船舶分野の営業資産残高増が押し上げ要因。

### 貸倒引当金繰入

当社グループ会社Katsumi Global, LLCのファクタリング取引先であるFirst Brands Group, LLCおよびその関連会社の一部が、アメリカ合衆国連邦倒産法第11章を申請したことに伴い、予防的見地から貸倒引当金を計上するもの。

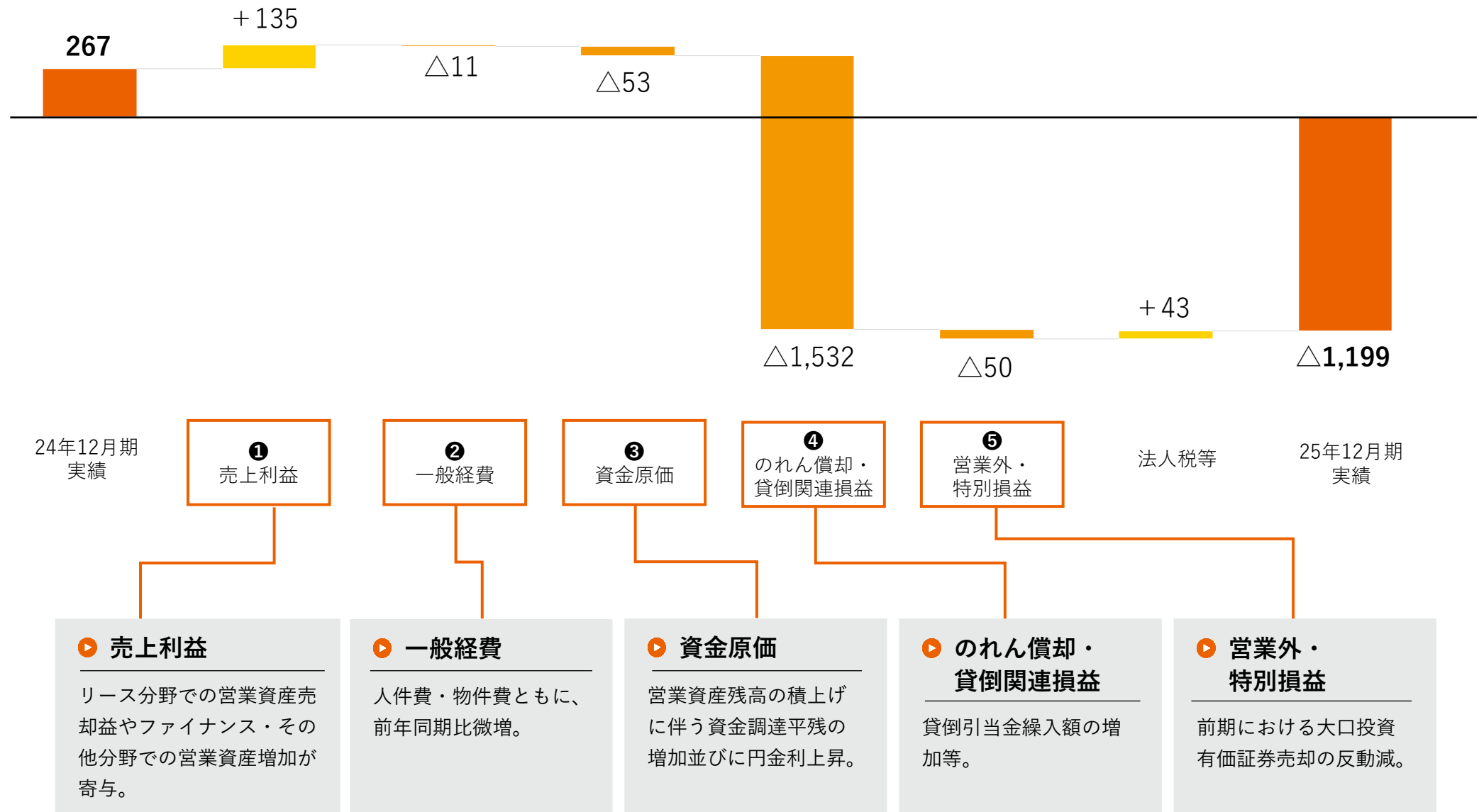
繰入額 1,505億円。

(詳細:2026年2月3日付リリース)

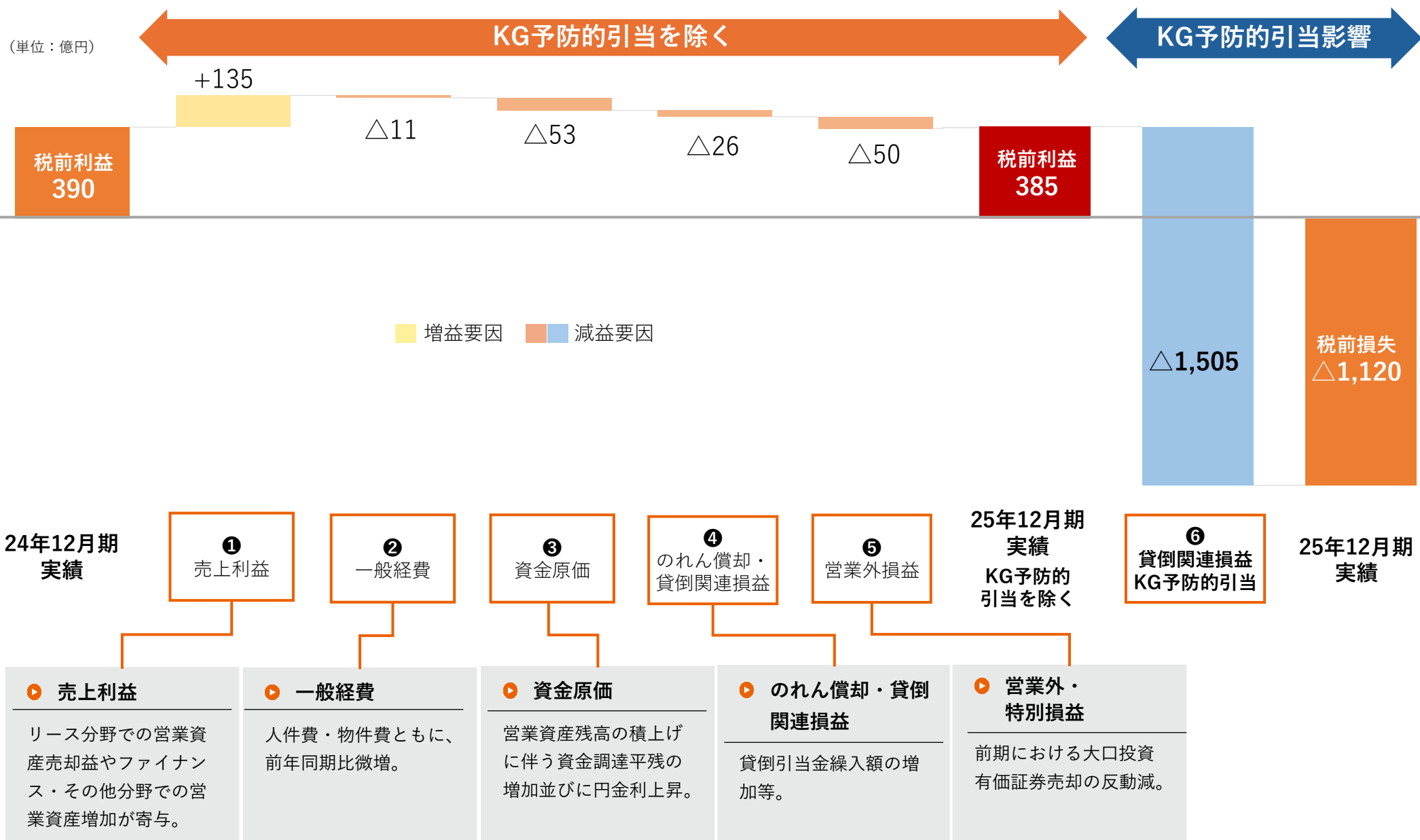
(\*1) 親会社株主に帰属する四半期純利益又は四半期純損失の金額を表示

# 親会社に帰属する四半期純利益の増減要因

(単位：億円)

■ 増益要因
 ■ 減益要因


# 税引前損益の増減要因 ～KG予防的引当を考慮～





# バランスシートの状況

## 比較貸借対照表（主要項目）

（単位：億円）

	'24年3月期	'25年3月期	'25年12月期	前期末比
総資産	29,558	34,018	34,338	+320
現預金	1,029	1,002	1,373	+371
営業資産	26,506	30,849	32,306	+1,456
リース	15,557	16,917	16,835	△81
割賦	1,144	1,037	966	△70
ファイナンス	8,951	10,857	12,122	+1,264
その他	852	2,038	2,381	+343
有利子負債	24,733	28,835	30,623	+1,787
短期	14,128	14,593	16,027	+1,434
長期	10,605	14,242	14,595	+353
純資産	3,072	3,347	2,004	△1,343
株主資本	2,774	3,046	1,729	△1,316
その他の包括利益累計額	231	260	233	△26
非支配株主持分	66	40	41	+0

### ▶ 営業資産残高

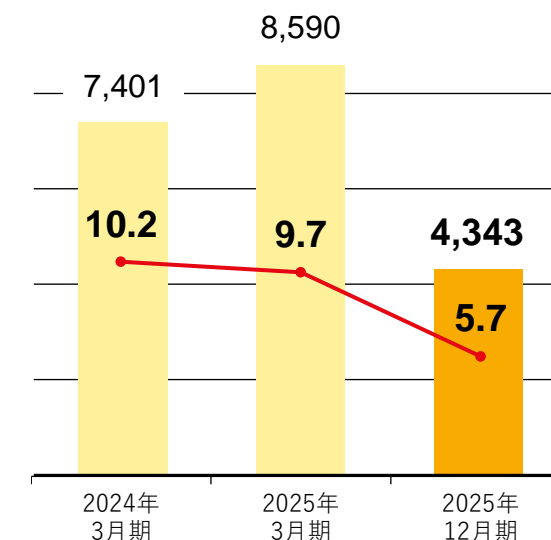
海外、不動産、再生可能エネルギー、船舶分野等での営業資産積上げにより前期末比4.7%の増加。

### ▶ 純資産

当期純損失により、前期末比40.1%の減少。

■ 1株あたり純資産額（円）

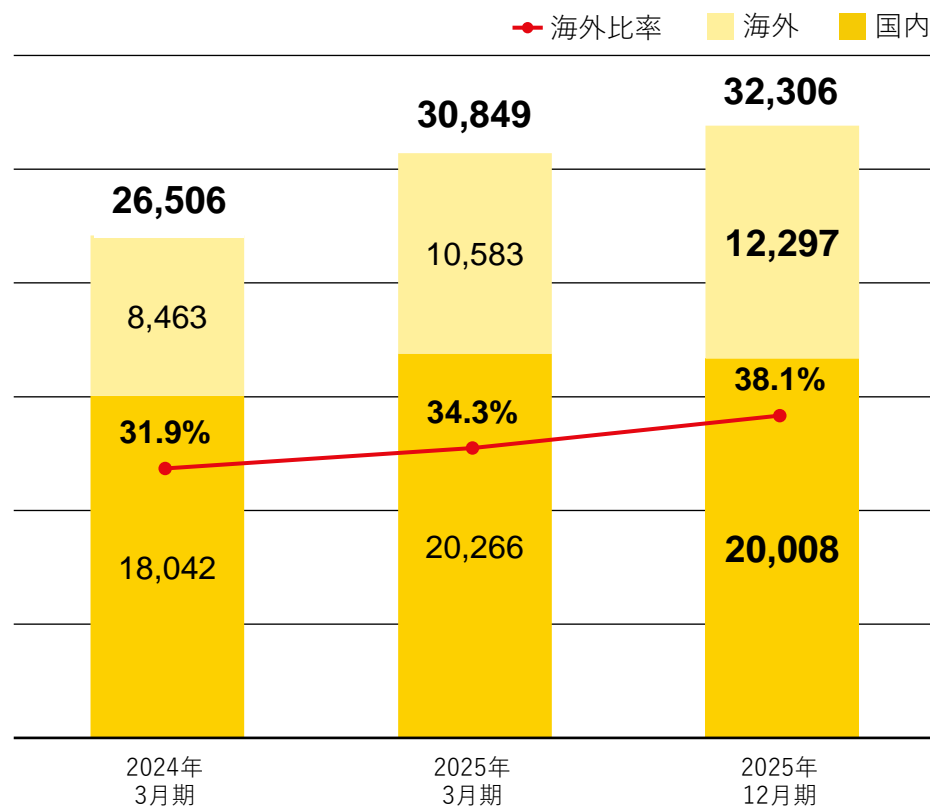
● 自己資本比率（%）



## 営業資産残高の状況

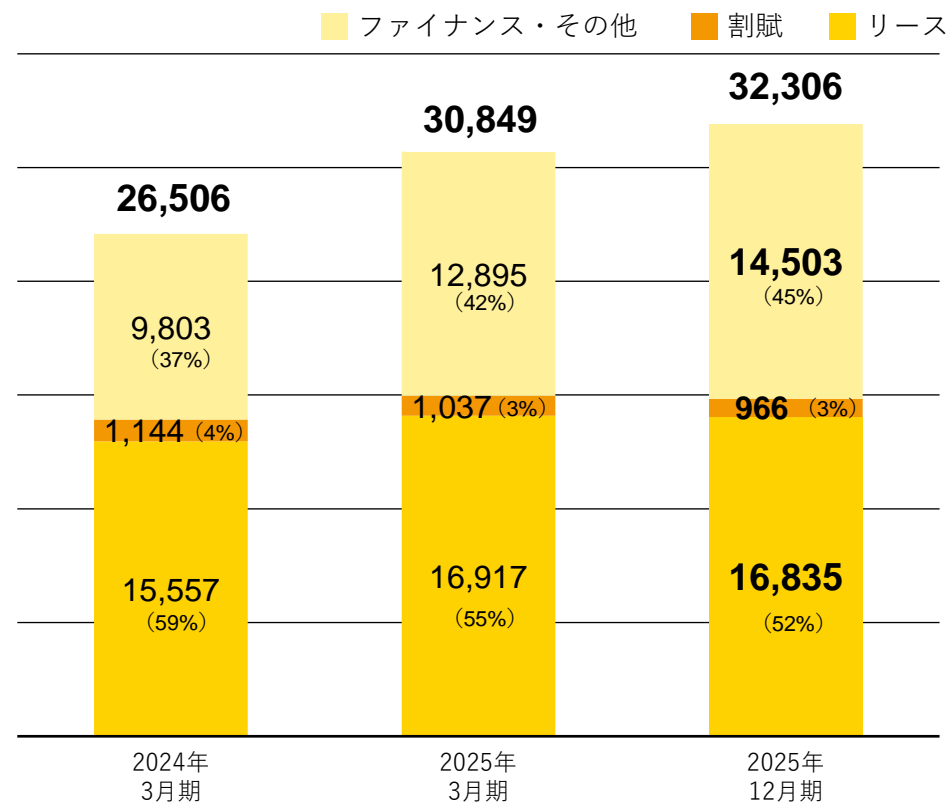
### 国内・海外別営業資産残高

(単位：億円)



### 契約種別営業資産残高 (契約種別シェア：%)

(単位：億円)



国内営業資産は、前期取組の反動減に加え営業資産の満了及び一部売却等もあり、前期末比1.2%、258億円の減少。

海外営業資産は、北米及びアジア圏での積み上げにより、前期末比16.2%、1,714億円の増加。

リース・割賦は、前期取組の反動減に加え営業資産の満了及び一部売却等により前期末比0.8%、153億円の減少。

ファイナンス・その他は、海外、不動産、再生可能エネルギー、船舶等での資産積み上げにより前期末比12.5%、1,608億円の増加。

## Ⅱ．資金調達の状況

## 資金調達の状況

有利子負債残高は、営業資産増加に伴い前期末比6.2%増の3兆623億円。

資金原価は負債平残増及び円金利上昇の影響により前年同期比12.9%増の497億円。

尚、筆頭株主かつ主要取引金融機関である農林中央金庫からは、昨年末の時点で借入枠を大きく増枠いただいております、当社グループとしての必要資金は現時点で十分確保できております。

### 資金調達残高推移

(単位：億円)

	'24年3月期	'25年3月期	'25年12月期		前期末比
				構成比	
間接調達	15,759	21,004	23,098	75.4%	+ 2,093
短期借入金	7,953	10,224	11,795	38.5%	+ 1,571
内、1年以内返済予定の長期借入金	1,564	2,618	2,234	7.3%	△ 384
長期借入金	7,805	10,780	11,302	36.9%	+ 521
直接調達	8,974	7,831	7,525	24.6%	△ 305
C P	5,359	3,447	3,048	10.0%	△ 398
社債	2,200	2,850	3,350	10.9%	+ 500
内、1年以内償還予定	350	400	750	2.4%	+ 350
流動化	1,415	1,533	1,126	3.7%	△ 407
内、1年以内支払債務	465	522	433	1.4%	△ 88
合計	24,733	28,835	30,623	100.0%	+ 1,787

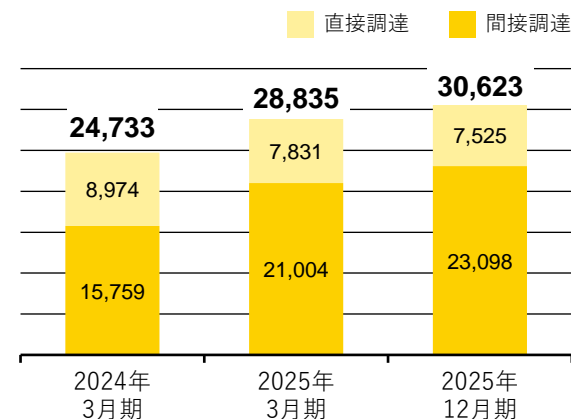
### 資金コスト推移（連結）

(単位：億円)

	'23年12月期	'24年12月期	'25年12月期	前年同期比
資金コスト（資金原価+支払利息）	309	440	497	+ 56

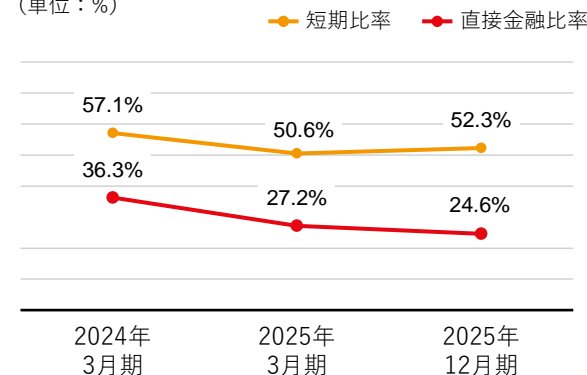
### 資金調達構造（期末残高の推移）

(単位：億円)



### 短期比率・直接調達比率

(単位：%)



# 格付情報

## 格付情報（2025年12月末現在）

### 直近3期末時点の格付推移

		'24年3月期	'25年3月期	'25年12月期
R&I 格付投資 情報センター	長期 方向性	A (安定的)	A+ ↑ (安定的)	A+ (安定的)
	短期 CP発行限度額	a-1 (6,000億円)	a-1 (6,000億円)	a-1 (6,000億円)
JCR 日本格付 研究所	長期 見通し	A+ (安定的)	A+ (安定的)	A+ (安定的)
	短期 CP発行限度額	J-1 (6,000億円)	J-1 (6,000億円)	J-1 (6,000億円)

### 当社2026年2月3日付リリースに対する格付機関コメント

#### R&I 2026年2月3日コメント（抜粋）

R&Iは、JA三井リースは農林中央金庫と三井物産の持分法適用会社で、財務健全性の確保を重視する両株主の姿勢を踏まえると、仮に大きな損失が発生し資本が棄損する場合には株主からの資本支援がなされる蓋然性は高いとみていた。今回の公表で支援の方針が明確になった。貸倒引当金の金額は拡大したものの、影響をおおむね吸収できるような規模の資本増強策が実現するとの見通しから、リスク耐久力の変化は限定的と考え、格付を見直す必要はないと判断した。

全文はこちらをご覧ください。

[news\\_release\\_cfp\\_20260203\\_24637\\_jpn.pdf](https://www.ja-mitsui-lease.com/news_release_cfp_20260203_24637_jpn.pdf)

#### JCR 2026年2月3日コメント（抜粋）

JCRは、当社の発行体格付について、単独信用力に基づく評価、農林中金による関与度および農林中金グループにおける経営的重要度を踏まえた評価を、いずれも「A+」相当とみている。今回公表された26/3期の当期純損失の予想額は、自己資本（25年3月末3,307億円）などと比して大きい。一方、農林中金は増資の引き受けや劣後ローンの実行を検討しており、他の主要株主や取引金融機関分と合わせ、損失額に対して一定の金額がカバーされるとJCRはみている。本件による当社の単独信用力への影響は避けられないとみているが、当社の長期発行体格付については、今後も農林中金グループの信用力を基点に評価した「A+」が下支えとなる。

全文はこちらをご覧ください。

Copyright © Japan Credit Rating Agency, Ltd. All Rights Reserved.



JA三井リース株式会社